

活動記録書

開催日： 令和5年7月6日(木) 晴れ	開催テーマ：『ゆったりと鎌倉・再発見』PARTⅢ ～鎌倉公方ゆかりの地を歩く～
開催場所： 鎌倉	記入者：川口 寿
参加人数： 会 員 27名 準会員 0名 ビジター 0名 合 計 27名	
<p>実施内容</p> <p>コース：京急バス停「岐れ道」～鎌倉宮～理智光寺跡～（護良親王の墓）～永安寺跡～瑞泉寺～鎌倉宮（解散）</p> <p>鎌倉ガイド協会のご案内による令和5年度第1回目の探訪である。当日の朝まで雨が降っていたが、探訪開始の頃には日が差し非常に蒸し暑い中でのスタートとなった。</p> <p>六浦路（金沢街道）の関取場跡から、古道である二階堂大路を通り鎌倉宮までを歩く。二階堂川沿いのこのエリアは、閑静な住宅街で落ち着いた鎌倉の雰囲気味わえた。</p> <p>鎌倉宮は、1869年（明治2年）、明治天皇によって後醍醐天皇の第3皇子護良親王を祀るために建てられた。境内の拝殿前には、獅子頭が飾られており、護良親王がかつて兜につけていたことに由来して、本宮のシンボルとなっているそうだ。親王は鎌倉幕府滅亡後には足利尊氏と対立し、東光寺に幽閉され、中先代の乱の際足利直義の命によって殺害された。まず宝物殿の陳列についての説明を受ける。ここには、親王の歴史絵や「幕末の三舟」らの書などが並んでいた。次に、約9ヶ月間に亘って親王が幽閉されたという土牢を見る。実際には、湿気が多く狭い岩屋ではなく、東光寺で相応の部屋が用意されて幽閉されていたのではないかとのことであった。</p> <p>殺害され捨てられた護良親王の首を葬ったのが理智光寺の住僧だったという。鎌倉宮を出て、理智光寺橋を渡ると、廃寺となった理智光跡碑と護良親王の御廟所があった。理智光寺はその跡地に今は石碑が残るだけであるが、願行上人が源実朝供養の為に開いた広い寺域を持った寺院だったそうだ。石碑の向かいに宮内庁管理の護良親王の墓がある。うっそうと茂った静寂な森の中の、長い階段を登った山頂に石垣で囲まれた中にお墓がある。現在は参拝停止中であるが、5～6年前に寺社を巡る会でここを訪ねた際には、上まで元気に駆け上がった会員が多くいたとのことだった。</p> <p>永福寺跡を左に見て通玄橋を渡り瑞泉寺に向かう。この辺りは紅葉ヶ谷と呼ばれており、晩秋には紅葉の名所である。緑が豊富で静かで歩いていて気持ちが良い。</p> <p>瑞泉寺総門近くで、三代鎌倉公方の足利満兼が、前鎌倉公方の氏満の供養のために建立した永安寺跡の説明を受ける。氏満の孫で四代鎌倉公方の持氏は、京都にいる将軍足利義教に対し反乱を起こし、永安寺で自刃したという。嫡子義久も報国寺で自刃し、以後、鎌倉は、政治の中心から離れ廃れていったそうだ。</p> <p>程なく花の寺と呼ばれる瑞泉寺に到着する。林の中の参道は、鳥が鳴き草花が豊富で訪れる人々を和ませてくれる。1327年（嘉暦2年）、二階堂道蘊が夢窓疎石のために建立した瑞泉院がはじまりといわれ、足利基氏が中興して瑞泉寺とし鎌倉公方の菩提寺となった。夢窓疎石が造営した庭園は、国の名勝に指定されている。手を施さない自然の樹木と岩肌の素晴らしい庭に見入った。</p> <p>寺の日陰の広いベンチでしばし休憩後、鎌倉宮に戻り解散となった。</p>	
<p>参加者の状況・意見など：</p> <p>非常に蒸し暑かったが、随時水分補給をし、ゆっくりと歩いたので、全員無事に回る事が出来た。訪問箇所が少なく距離も短かったのが、この時期の探訪には良かったのだと思う。</p>	
<p>次回の予定：</p> <p>令和5年8月3日(木) 金沢公会堂多目的室 14時～ DVD鑑賞 「国宝へようこそ」 ①法隆寺②洛中洛外図屏風</p>	